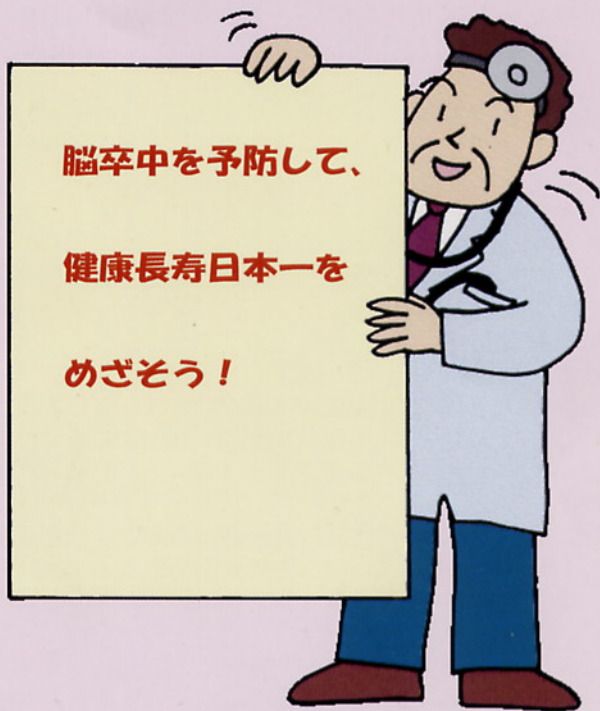


# 島根県脳卒中発症予防の ための治療指針



## は　じ　め　に

島根県では、昭和44年から49年まで実施した脳卒中特別対策事業や新脳卒中特別対策事業を皮切りに、各種調査事業などを活用し脳卒中对策を実施してきました。

その結果、昭和55年と平成12年の脳血管疾患年齢調整死亡率の全国順位を比較すると、男性は30位から16位へ、女性は26位から3位へ改善するなど大きな成果を上げてきました。

平成5年10月からは脳卒中発症者の情報を迅速に把握し、適切な保健・医療・福祉サービスを提供すると共に発症の誘因及び背景を明らかにし、予防対策に反映するため、島根県脳卒中等情報システム事業を開始しました。

本事業による医療機関等からの脳卒中発症及び退院連絡票の届出は年間1000件近くにおよび島根県の脳卒中对策における科学的データの集積として有益でありました。

このような中、平成12年度から導入された介護保険制度により、介護保険対象者となる脳卒中発症者の在宅保健・医療・福祉サービスの適宜・適切な提供に向けて基盤整備が進められる中で、本事業による情報提供件数も減少してきました。

改めて、本事業の情報結果を分析しましたところ、①発症者の4人に1人は再発者であり、再発を繰り返すほど重症化していること。②初発者の多くが軽症であるため、情報が入りにくく、早期に再発予防のための保健指導がしにくいこと。③60歳未満の発症は減少せず、また発症後の疾患管理が悪いため、再発をおこしやすいことなどの課題が明らかになってきました。

これらの課題解決に向けて、基礎疾患の管理及び最新の治療方法などを中心とした「脳卒中発症予防のための治療指針」を作成しましたので、保健・医療・福祉関係者の御協力と連携により本県の脳卒中予防対策を一層推進していきたいと思えます。

なお、本県の脳卒中予防対策につきましては、県医師会、関係医療機関及び市町村等の関係者に多大なる御協力をいただき感謝致しますとともに、今後とも脳卒中情報システム事業へのより一層の御協力を心よりお願い申し上げます。

平成17年1月

島根県健康福祉部健康推進課長　　中川 昭 生

## 目 次

はじめに

I	指針策定の目的	1
II	島根県の脳卒中発症の実態	2
III	島根県の脳卒中発症の低減目標	4
IV	脳卒中とは	6
A.	脳卒中の種類	6
B.	脳卒中のタイプと危険因子	7
V	脳卒中予防の一般的対応	8
A.	脳卒中一般の危険因子とその対応	8
B.	高血圧治療ガイドライン2000および2004に基づく血圧コントロールの実践が基本！	9
C.	降圧薬の積極的な適応と禁忌	13
D.	生活習慣の改善が重要	13
VI	脳卒中は発症早期の受診が予後を決める	15
A.	脳卒中の徴候、および一過性脳虚血発作(前触れ)とその後の管理	15
B.	くも膜下出血の症状	16
VII	脳梗塞の予防として注意すべきこと	17
A.	心房細動による脳梗塞(心原性脳塞栓症)の予防	17
B.	動脈に原因のある脳梗塞の予防	18
VIII	脳出血の予防として注意すべきこと	19
IX	くも膜下出血の予防として注意すべきこと	20
A.	くも膜下出血の種類と原因	20
B.	無症候性未破裂脳動脈瘤(脳ドックで発見)	20
C.	くも膜下出血の危険因子	22

X	脳卒中予防のQ&A	23
A.	Ⅱ型糖尿病と高血圧を合併する場合の管理は？	23
B.	虚血性心疾患を合併する場合の高血圧治療のポイントは？	25
C.	腎疾患を合併する場合の高血圧治療のポイントは？	25
D.	冠動脈疾患を伴う高脂血症の場合の管理は？	26
E.	血圧モーニングサージとは？	27
F.	脳卒中の予防に有用な高血圧の薬は？	27
X I	脳卒中の再発防止のためには継続管理が不可欠！	28
A.	脳卒中発症後の血圧の治療目標	28
B.	心房細動を合併した心原性脳塞栓症の治療	30
C.	脳卒中発症後のアスピリンの適応	30
D.	脳卒中発症後の糖尿病の管理	30
E.	脳卒中発症後の高脂血症の管理	30
X II	職場の健康管理で注意すべきポイント	31
A.	定期一般健康診断「所見あり」への対応	31
B.	時間外労働への取り組み：長時間の時間外労働への対応	32
C.	二次健康診断給付制度の活用による精密検査の活用	34
	資料	35